

子どもの食を考える会 採択団体



「オーガニック&つながるマーケット・しが」を基盤に「子どもの食を考える会」を立ち上げました。子どもとその保護者が安全な食べものについて関心を持つことを目的に、ケミカルクッキング、味噌づくり、ウインナーづくりなどの体験WSのスタッフを育成し、実際にWSを開催します。安全な食べものって何だろう、そうじゃない食べものはどこが違う？



オーガニック&つながる
マーケット・しが

しなやかシニアの会 採択団体



幾つになっても学び、夢を持ち、元気で輝き続けられるように積極的に、楽しく、充実したシニアライフを送ることを目指しています。会員相互の自主活動やイベントなどの文化活動を充実し、世代を超えて繋がりを作るよう、輪を広げていきたいと思っています。



ホームページ

大津おやこ劇場



生の舞台を鑑賞する「鑑賞活動」と、会員のやってみたくことを実現する「自主活動」の2つの柱で活動している会員制の非営利団体です。今年創立50周年を迎えました。活動を通して、年齢をこえた縦のつながりや学区をこえた横の繋がりができます。子どもも大人も共に育ち合うことを目的とし、楽しみながら活動をしています。



ブログ

じゃりんこ文庫

普段の文庫は、本の読み語り・本の貸し出しの他、折り紙や工作・おままごと・積み木などで自由に遊んでいます。季節の行事では、お正月一カルタとお抹茶の日、春・春ミッケの遠足、夏・かがくあそび、クリスマス・おたのしみ会などを行っています。子どもたちが、子ども時代を子どもとして、生き生きと過ごしてほしいと願っています。



今後の予定

8月 7日…貸出のみ

8月 28日…夏休みかがくあそび
(光の反射、見えない貯金箱作り)



ブログ

子どもたちに
伝えたいこと

大津市市民活動センターが主催する「大津・SDGs 協働支援チャリティプロジェクト」。今年度もSDGsの3つ以上の「P」に取り組む2団体が支援先として採択されました。2団体とも「子どもたちに」と事業を考えています。

今回のちえけらっでは、私たち大人が子どもたちに伝えられることって何だろう？をテーマに採択された2団体と、日頃から子どもたちに関わっておられる2団体の座談会をレポートします。

Take Free

イベント

リトミック

IN なっやすみ

8.22

会場

大津市市民活動センター

詳細・申込

対象

生後3ヶ月

参加費

1000円
(2人目から500円)



みんなで楽しく！！
ベビーリトミック

会場：明日都浜大津1階

対象：生後3ヶ月から就学前まで

参加費：1回500円

問合せ：070-5266-2890

講師：七蔵司きよみ

(保育士・リトミック講師)



大津リトミックグループ
保育士・音楽教室講師によるメンバー構成で
毎月、明日都浜大津で開催しています。

編集後記

ご協力頂いた皆さま誠にありがとうございました。座談会を端から聞いてみたけど、素敵な集まりがいっぱいあるのだなぁと再認識。お味噌の話や絵本の話、子どもたちに関わる熱い想いなどとても楽しいひとりで、どの団体にも自分の子どもを連れて行きたくなりました。こんな素敵な団体にチャリティ出来るならもっと頑張って集めるぞー！とやる気も頂きました。(スタッフK)

発行 大津市市民活動センター

大津市浜大津 4-1-1 (明日都浜大津 1 階)

☎077-527-8661 ✉moveinfo@movementotsu.com

Web



facebook



instagram



子どもSDGsクラブ

ゲームや見学会を通して、
SDGsの世界を体験してみよう！
未来の大津を考える連続講座です。

対象

小学3年生～6年生

期間

2025年10月～12月



詳細・申込



子どもたちに 伝えたいこと座談会

支援事業の紹介をはじめ4つの団体の普段の活動内容や今後やりたいことなど

子どもたちへの関わり方や気づきを語り合いました

座談会メンバー



採択団体

子どもの食を考える会
村上さん

大津 SDGs 協働支援チャリティプロジェクト 2025

採択団体・事業内容

「しなやかシニアの会」
各国からの留学生や NGO、元国連職員
などを迎えて、食事やお茶、体験など
の WS を交えてお話を開催。

「子どもの食を考える会」
ケミカルクッキング、豆腐づくり、味噌
づくり、ウインナーづくりなどの WS を
運営するスタッフの育成。



採択団体

しなやかシニアの会
佐藤さん



じゃりんこ文庫
乾さん



大津みやこ劇場
玉田さん



大津みやこ劇場
後藤さん

1. 体は毎日食べるものでできている

村上 私自身、お仕事でも市民活動でも、食べ物大事なテーマなので、支援事業では※1 子どもたちには丁寧に作られた食べ物と、そうじゃない食べ物、自分が食べているものについて考えてくれればいいなと思っています。自分が食べるもので自分の身体ができてるんだよって伝えたい。

お父さんお母さんにもその食べ物の裏側まで伝えたい。

市販で売られている食べ物はこんな味が着いていたり、臭いが着いてたりするというのを、ケミカルクッキングとか、味噌やウインナー作りのワークショップで伝えられたらと思います。

乾 私の主催する文庫では、生クリームを分離させてバターつくってバケットに塗って食べたの。

ケミカルに関しては、水と油は混ざらないでしょ。それは何故かって考えたうえで酢と油と卵の黄身から結局マヨネーズをつくって最後は食べる。

食べるのはね、みんな好きだから。それと、絵本の中の食べ物っていうので、3回講座をやりました。

村上 今、絵本の「ぐりとぐら」がパツと思ひ浮かんだわ。関心のあることと食べ物を結び付けられるってすごくいいですね、間口が広がりますよね。

玉田 子どもはクッキングとかすごく興味あると思います。食べることは大好きやし。

後藤 集まる人数もちょっと増えますよね、食べ物のイベントは。

2. 町家で世界を知る

佐藤 もともと「しなやかシニアの会」でいろんな国を中心に「シニアの目で見える世界編」という催しをしてきたんです。今、私の孫が小学生で英語をやっている、英語というより先生の話すことが面白くて、パナナって日本だと黄色いパナナしか食べないけど、料理に使うとか、知らないことを知るって好奇心を凄くくすぐるし、心に刺さるみたい。

この辺りも結構、外国からの旅行者、労働者とか技能実習生とか色んな人がいますよね。次の世代の子ども達は、外国人って枠組みじゃなくて、直に接することも増えてくる。いろんな国の人たちに関心を持って知ることってものすごく大事だなと思っていて。支援事業の中で※1 お話を聞きたいと思っている「国境なき医師団」の方は、近くにいらっしゃる方なんです。

後藤 確か近所に住んでいらっしゃるんですよね。

佐藤 せっかくなので、この町家を使って子ども達に、昔はこういうところでねって。襖一つ、タンスの奥とか面白いところはいっぱいあるから少し探検気分、のびのびと話を聞かってことが出来たらいいなと思っています。

乾 寝転がったりとか気持ちいいですね。床の生活が多いでしょう、今の子ども達って。

佐藤 予定とは別にそういう自由にきてゴロゴロできる日とかね。いいかなとか。

後藤 空き時間にボードゲームとかカードゲームとか。坊主めくりだったらちっちゃい子から大人までできるし。

乾 隅っこに、ボードゲームとかトランプとか置いておいて、自由に遊ぶとか？

3. スマホと居場所

玉田 おやこ劇場でも、自由にスマホ触ってる子もいるけど、みんなで坊主めくりしている間は離してる。やっぱり親としてはスマホを離す時間はあるがたい。コロナ開けて、初めて（おやこ劇場の）高学年合宿参加したのがすごく影響大きくて、「来年も行く」「次何があるの？」みたいな感じやから。



村上 なるほど、スマホを離す時間ね。やっぱり顔を合わせて交流するって大事な経験なんですよ。

乾 文庫にスマホは持ってるけど連絡用。うち来る子ってほかの子がいるのにゲームしてるってことはない。

玉田 それだけ楽しいってことですね。

後藤 コミュニケーションで使っている場合はいいかなと思う。みんなでスマホこんなあるんだーみたいな。一人でゲームとかやるのはどうかなって思います。

乾 スマホを使ってるのを思い出した！折り紙ちょうだいって折り紙渡したら、折り方をユーチューブで見えて。そうなん？そこまでわかるん？おばちゃんにも教えて。逆に教えてもらいました。

佐藤 今ね、何処にも居場所がないとか、つながってる人がいないとか、そう思い込んで、殻に閉じこもる人もいるから。居場所はどこでもあるよって、行ってみたら？っていう。その一歩踏み出す勇気を持ってほしいと思う。

玉田 それこそおやこ劇場。学校とか以外に、ここにも居てるよ。っていうのがある。

佐藤 一人じゃなくてみんなとつながる。できるだけ外であった人とつながっていくっていう。そういう感覚を実感してもらえたらうれしい。それがなにかの時には助けになるかもしれないですから。

玉田 出会った人とのつながりってすごい大事で、一人では難しいことも誰か仲間がいて、助けてくれる人がいたら。そういう人に出会えたらいいなあっていうのはありますね。

後藤 私も居場所っていうのはすごい大事だと思う。昔だったら人に迷惑をかけるのは悪いことで、自分でなんとかしようって。でも迷惑をかけるのは別に悪いことではないし、人に頼ることも大事なんだと思う。ここにいらっしゃる方は、みんなそういう事を大事にしてる方だと思うんですけど。

乾 昔、ありましたよね、お互い様だからって。誰かにお世話になったらその人に返すのではなくて、自分がしてもらったことを次の世代に返すって教わってきたんだけど。私たちの頃はそう言われてたんですよ。多分今も同じだと思うし、して貰いたいし、してあげたいっていうのは一緒だと思うけど……。（親子さんに向かって）頑張ってください。笑

4. 子どもはセンス・オブ・ワンダー

村上 例えばウインナー作ってみようとか、味噌を作るように言うのはどうなんでしょう。

後藤 そんなに難しいことじゃなくても。おやこ劇場でこの間はパンと中身を持ち寄って、店員は子どもで親子サブウェイをやったり。お店屋さんやりたい子が多いかな。

村上 思い出しました。私ね十年ぐらい三井寺でオーガニックマーケットやってるんですけど、出展者の子どもたちがみんな手伝いいたって来てたわ。

玉田 ちっちゃい子はバイトできないでしょ。店員さんに憧れるみたいで、何かお話をしあげたくて「どれにしますか？」「これと入れてどうぞ」というのをしたがつて。

村上 こういう町家で抹茶体験とかができるって言ったら興味わくかも。子どもが抹茶を点てて。先生に出して、おもてなしの人になつたらいいですよ。

後藤 お茶体験楽しそう。

佐藤 真似事で別にいいから、お点前をして、ちゃんと挨拶するんですよとか。そんな体験があったらいいのかな。



乾 文庫でそれしました。お茶の先生に来ていただいて、子どもたちがお点前。それこそ、お茶って総合芸術だから。そういうのもちゃんと伝えていけたらいいですね。私、レイチェル・カーソンのセンス・オブ・ワンダーが大好きなんです。驚くこととか、好奇心を持つとか、何かに感じるとか、感性をちっちゃいときに潰さないで大事にしてあげてほしいなって、そうすると自分が大事だと思うから。自分が大事って思うことは、他者もそうだから。それがそれこそお互い様になっていくから。そういう世の中に広がっていったらいいなと思います。



※1「大津・SDGs 協働支援チャリティプロジェクト 2025」支援事業のこと



お味噌づくりでも話が盛り上がりまして「10キロ作ると味噌の上がカビてきちゃって」「塩蓋してても？」「ラップしてる？」「塩蓋もラップもしてる」「そっかー、ラップしてもダメかー」村上さんが小学生でも楽しく作れるよーとおっしゃってました



会場はリュエルしなやか素敵な町家でシニアが集える憩いの場として国内外の歴史や文化などに関する講座やお茶会など色々な催しをされています

大津・SDGs 協働支援 チャリティプロジェクト 2025

ー 大津・SDGs 協働支援プロジェクトー

大津市民活動センターが進める市民、行政、民間、大学による四者協働で、啓発、交流、人材育成のテーマに事業を実施し、事業の参加費から運営費を除いた資金を SDGs に取り組む市民活動団体の支援にあてることで、支援先団体の SDGs 活動を推進する仕組みです。

詳しくは 2025 年特設サイトを
ご覧ください。

